

長野県医労連情報

長野県医療労働組合連合会

No 9

2014年 2月28日

TEL 026-228-9376

FAX 026-224-5745

E-mail: irouren-nagano@nifty.com

----- 医療労働者の生活と権利 県民のいのちと健康を守ろう -----

TPP で脅かされる日本の“食料主権”

食料確保、食の安全を守る運動を共同の力ですすめよう

長野県農民連事務局長の宮澤国夫さんを講師に、女性部旗開きで食の問題を学習



2月21日、長野市JAビルで2014年の女性部旗開きが開催され29名の参加がありました。「しゃべれば、食べれば、学び交流すれば」の「3ば」がモットーの女性部。まずは、農民連・宮澤さんを講師に「TPPが食卓に与える影響～食品添加物・遺伝子組み換え食品・残留農薬など～和食の無形文化遺産登録にもかかわって」と題して学習しました。

「TPPが締結したら、残留農薬基準の大幅緩和、食品添加物の急増、遺伝子組み換え食品の増加、食品検査態勢機能の低下、関税手続きの規制緩和、等々食べ物の安全性が脅かされる。」これに対して『たべもの』そのものの確保と『たべもの』の安全確保が重要。日本にはこの二つを確保する条件が揃っている。「TPPは日本文化である『和食』とは相容れない。多様で新鮮な素材、バランスの良い食生活、年中行事との関わりなど日本の食文化、『身土不二』の文化を守るために、消費者・労働者・農業者共同の運動を、アベノミクス「農政改革」反対、消費税を上げさせない運動と共にすすめていこう」と話されました。

後半はお待ちかね、役員手作りや各地の美味しいもの持ち寄りのしゃべって、食べての交流タイム

学習会で食について頭をいっぱいにした後は、持ち寄りの美味しいものでお腹をいっぱいしながら、学んだこと、思ったことを交流しました。今回も話しがしやすいようにと4～5人のグループに分かれ、あらかじめメモしてもらった設問の答えを出し合い、意見を交流するというもの。例えば「夫（彼氏）が海釣りに出かけ大量の魚を釣ってきました。場所は福島原発事故の放射能汚染が気になる東京湾内。あなたはその魚、どうする？食べる？食べない？それとも・・・？」。

参加者から出た意見は、「食べないし釣りにも行かせない」「ドッグフードにする」という食べない派と、「食べる。汚染についてよくわかっていないから」など食べる派の意見もありました。また、現実的なところで「魚が苦手なので食べない。夫だけに食べさせる（責任もって）。子どもは魚好きだが食べさせない」という意見もあり、様々な考えを聞き、食の問題を身近な視点で考え深める事ができました。

また今回持ち寄られた食べ物は、野沢菜の煮物、サラダ、パン、野菜の塩麴漬けといった手作りのものや、おやき、団子、たこ焼き、各地の銘菓等々、多くのおいしいものが並び、身も心も満たされた旗開きとなりました。



写真が無くてすみません